

定期作況報告

(第 6 号 令和8年10月20日現在)
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

- 令和 8 年 9 月下旬から 10 月中旬までの平年との比較による気象は次のとおりである（表 1）。
- 9 月下旬：最高気温はやや高く、最低気温は平年並、平均気温は平年並だった。降水量は平年並（平年比 95%）、日照時間は平年並だった（平年比 97%）。
- 10 月上旬：最高気温はやや高く、最低気温は低く、平均気温はやや低かった。降水量は少なく（平年比 53%）、日照時間はやや多かった（平年比 129%）。
- 10 月中旬：最高気温は極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は少なく（平年比 59%）、日照時間は平年並だった（平年比 112%）。

表 1. 気象表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	14.0	14.0	0.0	21.5	20.6	0.9	7.8	8.3	-0.5
10月 月上旬	11.2	11.8	-0.6	18.4	17.5	0.9	4.9	6.8	-1.9
10月 中旬	11.1	8.4	2.7	17.7	14.2	3.5	5.4	3.1	2.3
平均値	12.1	11.4	0.7	19.2	17.4	1.8	6.0	6.1	0.0

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
9月 下旬	26.0	27.4	-1.4	56.3	58.2	-1.9
10月 月上旬	25.0	46.8	-21.8	56.1	43.4	12.7
10月 中旬	16.5	40.0	-23.5	51.6	44.3	7.3
平均値	22.5	38.1	-15.6	54.7	48.6	6.0

2. 作 況

1) 水稻 良

5月20日現在：平年並

事由： 播種は平年より1日遅い4月17日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の草丈は平年並からやや短く、第1葉鞘高は平年並であった。葉数および茎数は平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は、平年並からやや重かった。苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈は、概ね平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや良

事由： 5月下旬から6月中旬の気温はやや高く、日照時間はやや多かった。幼穂形成期は、平年より3日早かった。草丈および葉数は平年並で、茎数は平年より6～22%多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 6月下旬から7月中旬の気温および日照時間は概ね平年並であった。止葉期は平年より2日、出穂期は3日早かった。草丈、茎数および葉数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：平年並

事由： 7月下旬から8月中旬までの気温は平年並で、日照時間はやや多かった。稈長は平年並からやや長く、穂長は平年並で、穂数は平年並からやや多かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：やや良

事由： 8月下旬の平均気温はやや低く、登熟期間の平均気温は平年並で日照時間はやや多かった。成熟期は平年より1日早く、登熟日数は平年より2日長かった。一穂粒数および稈実歩合は平年並であった。 m^2 当たり稈実粒数は平年の102～104%で、登熟歩合は平年に比べて-0.3～+1.3ポイントであった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由： 精粒重は平年比108～111%で、粒摺歩合は平年並から1.0ポイント高かった。精玄米千粒重は平年より0.3～0.7g重く、 m^2 当たり稈実粒数は平年をやや上回っていたことから、精玄米重は「ななつぼし」が75.0kg/a、「ゆめぴりか」が70.2kg/aで、それぞれ平年比110%、113%と多収であった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表 2. 10月20日の水稻の生育

品種名			ななつぼし			ゆめぴりか		
項 目 / 年 次			本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月.日)		4.17	4.16	1	4.17	4.16	1
	移植期 (月.日)		5.19	5.20	△ 1	5.19	5.20	△ 1
	幼穂形成期 (月.日)		6.18	6.21	△ 3	6.19	6.22	△ 3
	止葉期 (月.日)		7.06	7.08	△ 2	7.06	7.08	△ 2
	出穂期 (月.日)		7.14	7.17	△ 3	7.14	7.17	△ 3
	成熟期 (月.日)		8.30	8.31	△ 1	8.30	8.31	△ 1
	穂揃日数 (日)		8	7	1	7	7	0
	登熟日数 (日)		47	45	2	47	45	2
	生育日数 (日)		135	137	△ 2	135	137	△ 2
移植時	草丈 (cm)		13.8	14.2	▲ 0.4	12.3	14.2	▲ 1.9
	葉数 (枚)		4.2	4.1	0.1	4.4	4.3	0.1
	茎数 (本/m ²)		146	145	1	149	156	▲ 7
	第1葉鞘高 (cm)		2.6	2.5	0.1	2.3	2.4	▲ 0.1
	地上部乾物重 (g/100本)		4.96	4.49	0.47	4.38	4.60	▲ 0.22
	地上部乾物重/草丈		0.36	0.32	0.04	0.36	0.32	0.04
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.3	8.2	0.1	8.6	8.5	0.1
		7月20日	9.9	10.2	▲ 0.3	10.2	10.5	▲ 0.3
		止葉葉数	9.9	10.2	▲ 0.3	10.2	10.5	▲ 0.3
	茎数 (本/m ²)	6月20日	683	558	125	658	623	35
		7月20日	736	724	12	782	815	▲ 33
	草丈 (cm)	6月20日	43.9	42.6	1.3	41.0	39.5	1.5
		7月20日	92.7	88.7	4.0	89.6	87.1	2.5
成熟期	稈長 (cm)		74.9	71.1	3.8	69.9	67.2	2.7
	穂長 (cm)		16.6	17.1	▲ 0.5	16.9	17.1	▲ 0.3
	穂数 (本/m ²)		732	673	59	765	764	1
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		47.0	48.9	▲ 1.9	43.2	42.1	1.1
	m ² 当たり粒数 (×100)		344	328	16	331	321	10
	稈実歩合 (%)		96.0	96.2	▲ 0.2	93.7	94.4	▲ 0.7
	m ² 当たり稈実粒数 (×100)		330	316	14	310	303	7
	同上比 (%)		104	100	4	102	100	2
	登熟歩合 (%)		90.5	89.2	1.3	84.5	84.8	▲ 0.3
	籾摺歩合 (%)		82.1	81.1	1.0	78.1	78.1	0.0
	屑米歩合 (%)		3.0	1.8	1.2	5.4	4.3	1.1
	精玄米千粒重 (g)		23.1	22.8	0.3	23.8	23.1	0.7
収量	藁重 (kg/a)		65.3	66.9	▲ 1.6	62.6	63.7	▲ 1.1
	精粒重 (kg/a)		90.2	82.9	7.3	87.6	78.8	8.8
	精玄米重 (kg/a)		75.0	68.2	6.8	70.2	62.4	7.8
	屑米重 (kg/a)		2.3	1.3	1.0	4.0	2.8	1.2
	収量平年比 (%)		110	100	10	113	100	13
	検査等級 (等)			1下	-		2上	-

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、令和6年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥：くみあい軽良培土床土用を約1.08 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 0.7、K₂O 0.5、MgO 0.1 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 2.5 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 0 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 秋まき小麦 (R8年播種) 平年並

10月20日現在：平年並

事由： 播種は平年並の9月16日に行った。出芽期は平年より1日早かった。出芽期以降の平均気温は10月上旬はやや低かったが、その他の期間は平年並から極めて高かったことから、葉数、草丈は平年並みであったが、茎数は平年をやや上回った。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

表3. 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.16	9.16	0
出芽期 (月.日)		9.23	9.24	△ 1
出穂期 (月.日)			6.01	
成熟期 (月.日)			7.12	
越冬茎歩合 (%)			124.3	
雪腐病発病度			8.1	
葉数(枚)	令 7年10月20日	4.3	4.4	▲ 0.1
草丈 (cm)	令 7年10月20日	18.7	19.3	▲ 0.6
	令 8年 5月20日		54.3	
	令 8年 6月20日		93.4	
茎数 (本/㎡)	令 7年10月20日	815	759	56
	令 8年 5月20日		1198	
	令 8年 6月20日		709	
成熟期	稈長 (cm)		86	
	穂長 (cm)		8.3	
	穂数 (本/㎡)		658	
子実重 (kg/10a)			628	
同上平年比 (%)			100	
容積重 (g/L)			822	
千粒重 (g)			38.3	
蛋白質含有率 (%)			8.9	
検査等級 (等)			1	—

注1) 平年値は前7か年中、収穫年における令和8年（最豊年）、令和2年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 大豆 やや良

5月20日現在：

事由： 播種は平年並の5月18日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 出芽期は平年より3日早い5月28日であった。主茎長は平年並で、主茎節数は平年よりやや少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由： 開花期は平年並。平均気温が6月下旬を除きやや高い傾向で経過したことから、主茎長は長く、主茎節数はやや少ないが、分枝数は多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：平年並

事由： 7月下旬から8月上旬に平均気温が低く推移したことから、前報以降、生育が緩慢となった。主茎長はやや長く、主茎節数、分枝数および着莢数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

9月20日現在：平年並

事由： 8月下旬から9月上旬にかけて降水量が多く推移し、倒伏が見られた。成熟期は9月10日で平年より3日早かった。主茎長、分枝数は平年を上回り、主茎節数、着莢数は平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

10月20日現在：やや良

事由： 成熟期の莢数は平年並みであったが、子実重は平年比108%とやや多収であった。百粒重はやや小さく、屑粒率は平年並みであった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

表 4. 10月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.18	5.18	0
出芽期 (月.日)		5.28	5.31	△ 3
開花期 (月.日)		7.08	7.08	0
成熟期 (月.日)		9.10	9.13	△ 3
主茎長 (cm)	6月20日	14.7	15.1	▲ 0.4
	7月20日	68.5	60.5	8.0
	8月20日	67.2	62.1	5.1
	9月20日	69.1	61.4	7.7
	成熟期	69.1	61.4	7.7
主茎節数 (節)	6月20日	3.7	4.0	▲ 0.3
	7月20日	9.2	10.0	▲ 0.8
	8月20日	10.4	10.3	0.1
	9月20日	10.1	10.2	▲ 0.1
	成熟期	10.1	10.2	▲ 0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	6.4	0.8
	8月20日	6.8	6.3	0.5
	9月20日	9.9	6.0	3.9
	成熟期	9.9	6.0	3.9
着莢数 (個/株)	8月20日	88.2	86.9	1.3
	9月20日	89.5	88.4	1.1
	成熟期	89.5	88.4	1.1
子実重 (kg/10a)		457	424	33
同上平年比 (%)		108	100	8
百粒重 (g)		32.3	33.5	▲ 1.2
屑粒率 (%)		2.0	1.5	0.5
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、令和6年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

4) 小豆 良

6月20日現在：平年並

事由： 播種は、平年より1日早い5月22日に行った。出芽期は平年より4日早かったが、主茎長は平年よりやや短く、本葉数は平年を下回った。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：平年並

事由： 7月上旬以降気温が高い傾向で推移したことから生育が順調に進み、主茎長は長く、本葉数は平年より多かったが、分枝数は少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや良

事由： 開花期は平年より1日遅かった。7月下旬から8月上旬は気温が低く経過したものの8月中旬は気温が高く、日照時間は8月上旬以降多く推移したことから、地上部生育が旺盛となり、主茎長は平年より長く、本葉数は平年より多く、倒伏が目立った。着莢数は平年を大きく上回った。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：やや良

事由： 成熟期は平年並。主茎長は平年よりかなり長く、主茎節数、着莢数も多かった。分枝数は平年並だった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：良

事由： 百粒重が平年よりやや軽かったが、前報のとおり成熟期の莢数が多く、子実重は平年比114%と多収であった。屑粒率は平年よりやや低かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表 5. 10月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモ167		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.22	5.23	△ 1
出芽期 (月.日)		6.03	6.07	△ 4
開花期 (月.日)		7.23	7.22	1
成熟期 (月.日)		9.05	9.05	0
主茎長 (cm)	6月20日	5.2	5.6	▲ 0.4
	7月20日	32.2	28.7	3.5
	8月20日	86.9	70.8	16.1
	成熟期	98.6	76.0	22.6
本葉数 (枚)	6月20日	1.0	1.3	▲ 0.3
	7月20日	9.7	8.8	0.9
	8月20日	14.8	13.6	1.2
主茎節数 (節)	成熟期	15.7	13.8	1.9
分枝数 (本/株)	7月20日	5.3	6.2	▲ 0.9
	8月20日	6.5	6.6	▲ 0.1
	成熟期	6.0	6.1	▲ 0.1
着莢数 (個/株)	8月20日	79	62	17
	成熟期	58	53	5
子実重 (kg/10a)		363	319	44
同上平年比 (%)		114	100	14
百粒重 (g)		12.7	13.0	▲ 0.3
屑粒率 (%)		2.9	3.2	▲ 0.3
検査等級 (等)			3上	-

注1) 平年値は前7か年中、令和4年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。